

397120

常備艦隊

常備艦隊征灣第二回報告

廿八年五月十八日大本之右ノ左ノ命令アリ

命令海第二號

一 貴官台湾及澎湖島派遣中ハ台湾總督子爵

樺山資紀ノ指揮ヲ受クシ

二 松島高千穂浪速千代田大島西京丸及第四水

雷艇隊母艦近江丸病院及供給船神戶丸

船及兵器工作船元山丸ヲ台湾及澎湖島派

遣セシム

三 西京丸神戶丸元山丸ハ此命令到達ノ日ヨリ一時

貴官ノ指揮下ニ入ル

四 巖島樺三吉野秋津丸筑紫赤城海牙

耶、愛宕、艦城、八重山及第一水雷艦隊第二水雷
艦隊第三水雷艦隊ト母艦山城丸ハ此命令到達ノ
日ヨリ一時西海艦隊ノ指揮下ニ入ラシム

明治三十八年五月十八日

大本營

常有艦隊ノ三隻有地臺丸也

五月十八日台灣總督ヨリ左ノ命令アリ

臺命第一號

一本官ハ台灣島ヲ收領シ臺北府ヲ以テ駐劄ノ地ト

定メシトス若シ彼ノ軍隊ニシテ我ニ抗セハ兵力ヲ以テ

之ヲ擊攘セシトス

ニ我陸海軍ノ集合點ヲ沖繩縣下中城灣トナス

三貴官ハ本月廿八日迄ニ吾下各艦ヲ中城灣ニ集合セシム

手アテコトヲ電報ヲ照會シ此情況ヲ大本營及樺山
台湾總督ニ報告セリ

五月廿三日附ク大本營ヨリ電令ヲ臨時設部ノ貴
官指揮ニ充テ我ト心得ル

旗艇松島ハ樺山台湾總督ニ依リ五月廿三日
守品ニ回航ス同左ノ命令ヲ領ス

其五 命令二号

命令

一 其五 命令第一号、命令中中城湾ヲ台湾淡水港

改正ス

二 貴官ノ麾下ノ船中一隻ヲ中城湾ニ廻航セシメ

若シ陸軍運送船ノ同湾ニ寄港スルヲアルハ直ニ

台湾淡水港附近ノ集合地ニ廻航セシムル

明治二十八年五月廿三日

基隆總督府樺山資紀

常備艦隊司令長官有地品之元殿

依^ニ平代田艦長^ニ左ノ命令ヲ興^ラ

旗令第二号

一本官ハ樺山台湾總督ヨリ部下ニ艦ヲ中城灣ニ寄

港セシメ陸軍運送船^ト古々^ト淡水港外ニ來^ルト^シ傳

達スベキ命^ヲ受^ケタリ

ニ貴艦ハ冲繩縣下中城灣ニ寄港ニ若シ大島及陸

軍運送船^トシテ同灣ニ集合スルノア^リトキハ古々^ト在

り淡水港ノ北方大凡拾海里(小基隆ノ冲)ノ位置ニ

來^ルハ^キコト^ヲ大島及陸軍運送船^ニ傳達ス^ルハ^キ旨^ヲ

中城灣ニ^テル^ル使^員ニ^テ依^テ淡水港外ニ來^ルト^シ傳

但澎湖島ニテ艦船ヲ除ク

四貴官ハ部下ノ軍艦ヲテ台湾東岸ノ蘆澳ヨリ北三

貂角附近及其西岸淡水港ヨリ以南香山港附

近並其西南岸打狗港安平鎮附近ノ沿岸ニ

於テ上陸ニ適スルキ地点ヲ偵察セシメ成ルク速ニ中

城湾ヲ於テ其結果ヲ本官ニ報告スルシ

明治三十八年五月十八日

台湾総督樺山海軍大将

當時麾下艦船所在ハ左ノ如シ

松島(司令官)旗艦 神戶港

浪速(司令官)旗艦 長崎港

高千穂

千代田
大島
西海艦隊任地

西京丸、佐世保ニ向ヒ帰航中

第四水雷艇隊

母船近江丸

病院船及供給船神丸

造船及兵器製作船元丸

澎湖島ニ在リ

此、於、司令長官ハ、旗艦松島ヲ吳港ニ圍シ出艦準備
ヲ整ヘ且ツ左ノ命令ヲ發ス

旗令第一號

一、貴官ハ浪速高千穂ノ兩艦ヲ率ヒテ先ツ台灣淡水港ニ

至リ同港ノ状況ヲ觀察シ次ニ同島東岸蘆澳灣ヨリ

以北三貂角及淡水港附近、沿岸ニ於テ陸軍兵ノ上

陸通之地點ヲ搜索シ成ルハ来ル二十八日迄沖繩
縣下中城灣ニ来リ復命スヘシ

二福島陸軍大佐安原海軍少佐及島村外交官ハ来ル
廿二日頃長崎着上乗艦スル筈ナリ故ニ之ヲ待テ直ニ
出港諸事右諸官ト打合スヘシ

明治二十八年五月二十日 吳港ニ於テ

常備艦隊司令長官有地昌之允

常備艦隊司令官東郷平八郎殿

軍艦千代田及大島ハ西海艦隊司令長官ヲ經テ来ル廿八日

中城灣ニ集合スヘキ旨ヲ電報シタリニガ五月廿一日附威海

衛ヲ發シ只今大島ニ傳達ストノ報ニ接ス

又五月二十日附馬関發電報ヲ以テ大總督府海軍參謀

官ヨリ千代田ニ大總督府凱旋ノ途上大總督護衛

任務ヲ終ハシ常備艦隊ニ合スルキ旨告十五日辰在
成リタルトノ報ニ接ス

西京丸ハ五月二十日午後佐世保ニ着港汽罐漏水甚シ
此儘使用シテハ危険ヲ冒スノ恐シキ事日数大凡
十四日着キスニキヤ御指令ヲ待テ該艦長ヨリ電報ヲ
依テ左ノ旨右ヲ發ス

其船ハ直ニ佐世保ニ着キシ出来、其沖繩船ハ中城
灣ヲ經テ本隊ニ合スルニ

明治二十八年五月二十日 長崎

常備艦隊司令長官 佐世保 豊元

佐世保

西京丸船長 東白 正路 茂

同時佐世保鎮守府司令長官 西京丸修理大工 三 意 着

官復原状スレ

三、本官の来るに於て午前中ニ台湾淡水港外ニ達セ

トス

四、樺山支隊の船路に本世の迄に松原丸ニテ淡水

港外ニ達セラルル筈ナリ

明治二十八年五月二十三日

常備艦隊司令長官有地昌之允

手代田経吉内田正助

又佐世保に於て修理中ナル西京丸艦長に左ノ命令ヲ
其ノ

旗令第三号

一、貴船の修理出来次第飲用水其他ノ軍需品ヲ滿
載シ淡水港ニ直航シ本官ニ會スレ

ニ淡水港外に於て本官若くは他艦船ニ會スルコトヲ得
サルトキハ澎湖島ニ至リ命ヲ待ツベシ

明治二十八年五月廿三日

常備艦隊司令長官有地品三允

西京丸艦長東郷正路殿

台后第一号ノ台后ハ右后ハ二号ヲ以テ改正セラルト
モ既ニ浪速高子植ノ二船ハ前令ニ依テ長崎ニ出帆シタ
ルノ後ニシテ台后ヲ改正スル能ハザリシモ近代國ノ中城湾ニ至
ルアリ且ツ浪速ノ乗船セル福島陸軍大佐等、台湾紀
略ありき甚セラル電報ニ依リ淡水ニ集合スルコトニ為ル
ヲ告レルナラント推案シ旣船福島ハ五月廿四日午後四時
五分宇留港ヲ抜錯シテ去る所淡水灣ニ向テ向
キ福島ハ既以異情ナラシ五月廿六日午後七時淡水港外

第三表

五月廿七日

其臺灣輸送船班別表

明治廿八年五月十八日

班別船名

監督將校

薩摩

姫路

佐倉

築城

中山海軍少尉

廣島

柘山

小樽

名古屋

長海軍少尉

豐橋

和歌浦

愛國

報國

保坂海軍少尉

膽振

天津

大連

仁川

山下海軍少尉

附記

一、各班船長ハ其班別監督將校ノ特ニ定ムル規定ニ從ヒ運

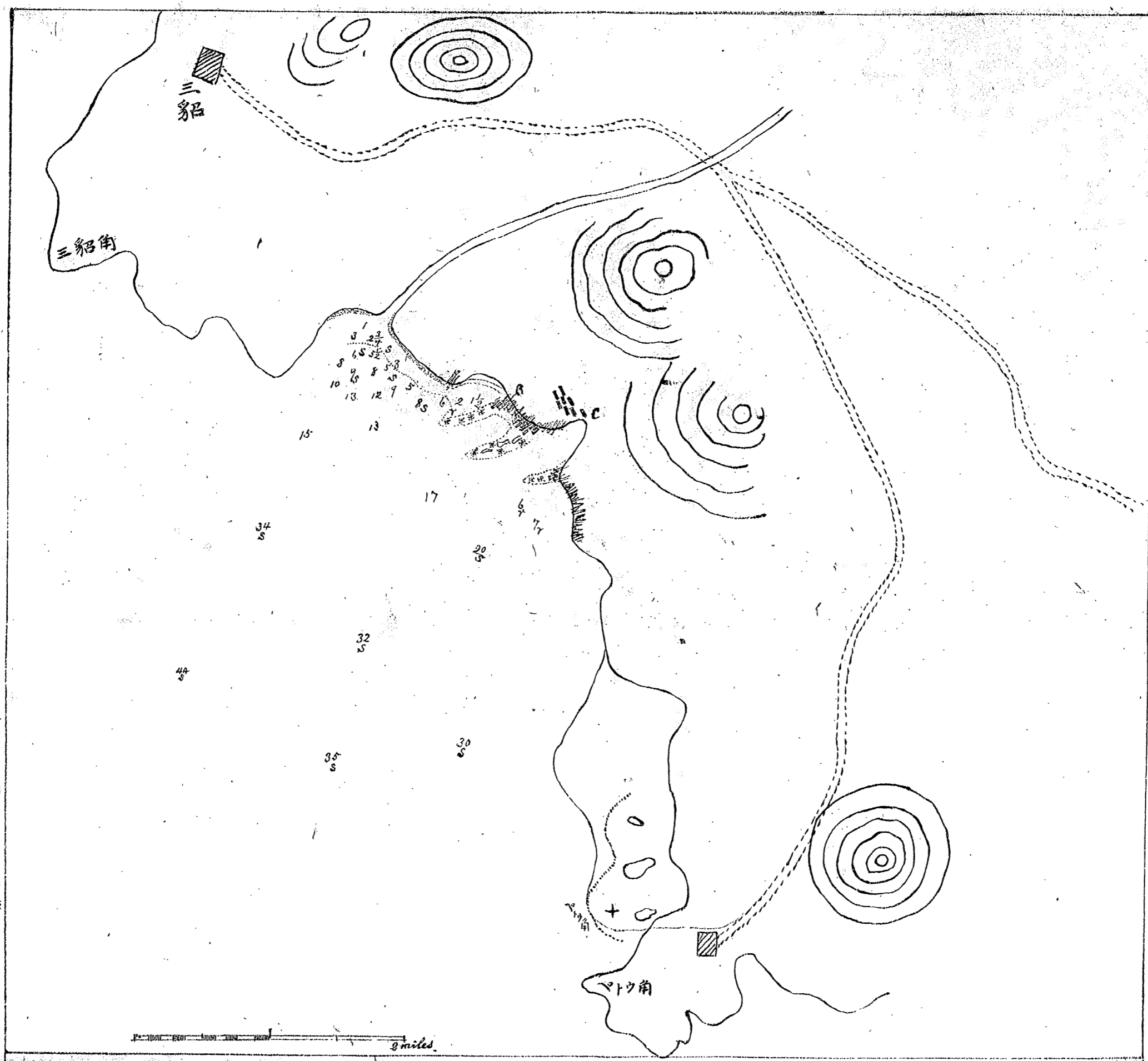
動スルモノトス

二、第一次ニ在テハ完全ナル海圖ヲ渡ス能ハサルヲ以テ各班嚮導

船ニ跟隨過誤ナキ様一層注意スルヲ要ス

大本營

赤線ハトウ角海岸線ハ鷓籠島及三貂角トヲ以テ改正セル者ナリ
 海岸線岨礁等ノ位置ハ見取丸ヲ以テ確實ナラズ



圖ノ八度海軍海圖三百三十四号ノ四倍

三貂角

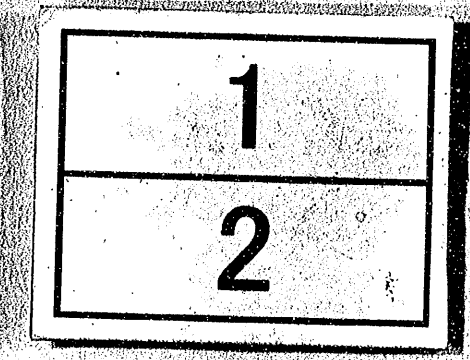


三貂角ヲ南行東ノ東六哩ニ見ル

河口

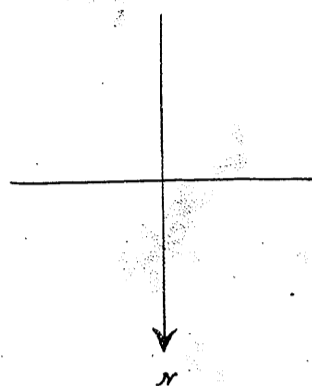
落石

分割撮影ターゲット

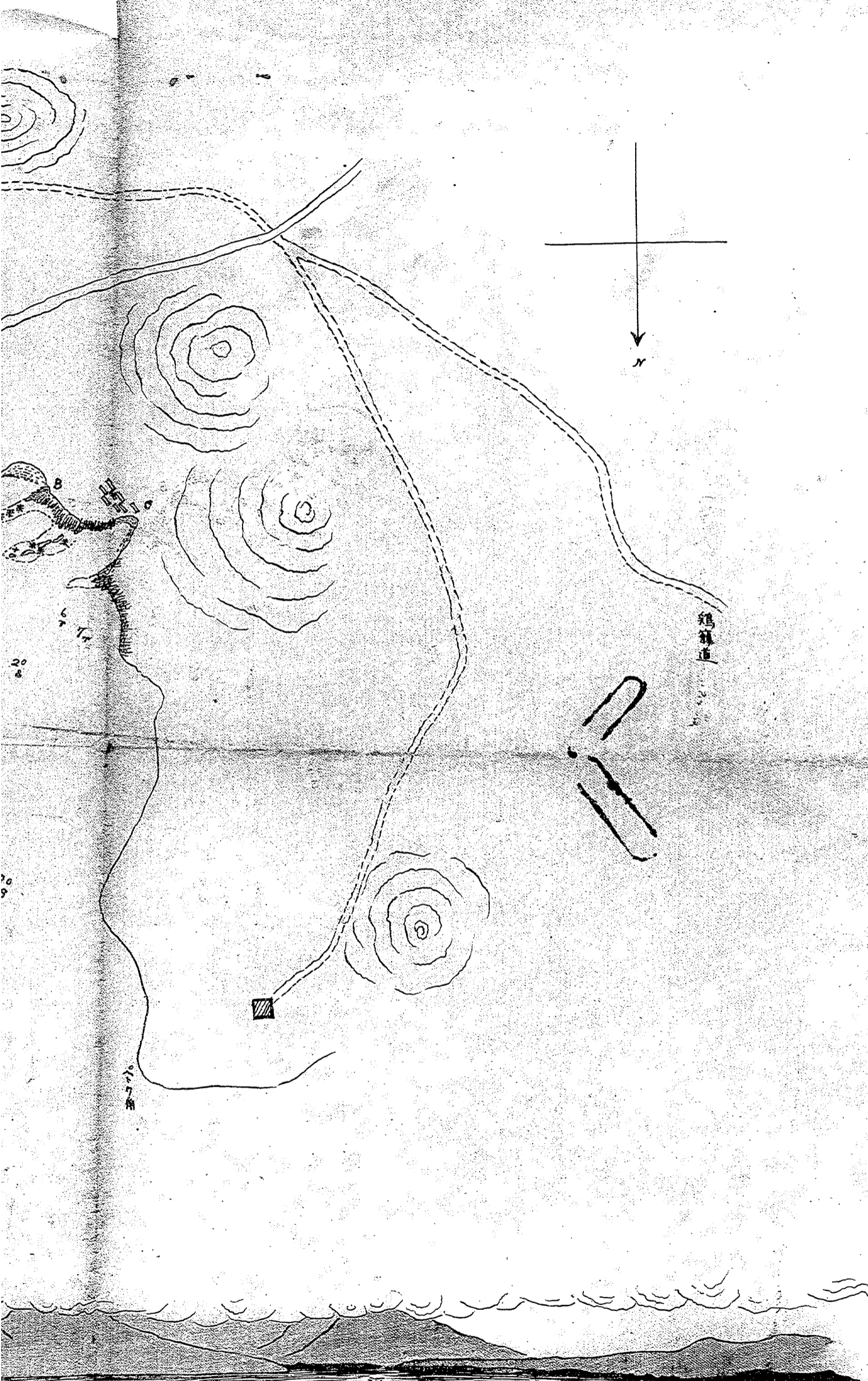
<p>分割した 部分の 撮影順序</p>	
<p>分割撮影 した理由</p>	<p>A 3 版 以 上 の た め</p>
<p>上記のとおり分割撮影した事を証明する。</p>	

0017
8100
0018

三貂角西灣上陸點
三貂角西灣上陸點



三貂角



三貂角西灣上陸點



一海峽線位置は、三貂角より南に約六十海里あり

図ノ大度海峽海峽三貂角より南に約六十海里あり

凡見ニ深六米ニ至テ南ヲ向スル

碇泊

淡水港外に艦隊司令官、艦艇浪速、碇泊せしり同
司令官より淡水港近状及浪速言子穂二艇探見
ニ上陸点ニ関スル報告ヲ呈ス

東郷司令官より進達、五月廿七日附淡水港近状報告左
如シ

(東郷司令官報告スル)

當時淡水港ニ碇泊、艦艇浪速、外英國砲艦、レドブ
レトシ号獨國砲艦、イルタシ、及獨國高船壹隻、レシテ
浪速言子穂二艇ハ去ル五月廿五日當港外ニ投錨浪速
ハ止マテ淡水附近、上陸点ヲ探リ、高千穂ハ廿五日夕ヨリ
三貂角附近、上陸点探見ニ赴キ廿六日ニ再ニ淡水
ニ投錨シ廿七日司令官ヨリ、諸報告、以テ沖繩島中城

灣ニ赴ケル

又浪速ニ執ニ依リ滬尾ノ方向ニ當リ時々砲聲ヲ聞キタリト

五月廿六日午時三刻ヲ滬尾ノ高丘ニ立ル砲台及兵營及

東方ノ高原ニ無数ノ旗幟ヲ翻カタリ夕刻ニ至リテ之ヲ

撤ス

五月廿六日午後九時榊山台湾総督横濱丸ニテ淡水港外ニ

着セシニ即時司令長官幕僚ヲ率ヒ伺候ス

此時総督ヨリ之ヲ命令シテ授セラル

一、老東河を以テ本都ハ中津湾ヲ經テ航進シテアリ東

經百廿二度小緯廿五度五分ノ地点ニ於テ五月廿九日

午前六時迄ニ集合ス

二艦隊ハ五月廿九日未明ニ拔錨シテ集合點ニ至リ運送

船ヲ艦上ニテ三船角上陸點ニ至リ近衛河を以テ長ト

協議シ陸兵ヲ揚陸ヲ助ス

三、横濱丸、列外ニ在リテ艦隊ト進退ヲ共ニス

五月廿九日午前五時松島浪速港板橋至船集后
点ニ向テ横濱丸モ同時板橋ニテ列外ニテ進ム途
中濃霧ニ逢テ横濱丸ヲ失ス午前十時霧少シテ晴シ
集合點ニ横濱丸及運送船十二隻ニ會シ三貂角ニ導ク時霧
再ヒ来リ遠方ニ船數隻ハ信号ヲテ為スモ解シ得バ
カラス會横濱丸ヨリ浪速ヲモテ運送船ノ後トヨリ来
ラシメト信号アリ依テ之ヲ浪速ニ傳達ス霧深クシテ
三四ヶ分以外ヲ識別シ能ハサリシガ正午霧少シテ晴シ
三貂灣ヲ認ムルヲ得午後一時十分同灣ニ板橋ス各運
送船モ續テ入港シ浪速最後ノ運送船ヲ道守テ入港
シタルハ午後二時ナリ

午後一時廿五分出物彦謀長近衛河團司令部、乗船薩ナ
 丸出張陸揚陸軍ヲ協議ス其結果左ノ如シ
 一揚陸兵、佐倉ノ海軍ニ於テ為スル要セズ
 二揚陸兵、佐倉ノ海軍ニ於テ為スル要セズ
 浪速ヨリ出渡汽船ニ乗リ及カッター二隻ヲ乗上格丸ニ
 送ルコト

而シテ五格丸が所屬艦艇ヲ三船降下、砂濱ニ上陸シ初
 ヲルハ午後一時五分ニシテ同時揚陸志、揚陸志者
 生揚志者ニ乗リ及カッター二隻ヲ乗上格丸ニ
 斯ルニシテ海濱者ニ乗リ及カッター二隻ヲ乗上格丸ニ
 砂濱ヨリ上陸シ企テしが逆浪為メ上陸志者見
 ニシテ揚陸志者ニ乗リ及カッター二隻ヲ乗上格丸ニ
 輪船信都ノ海濱、川口ニ於テ上陸志者ニ乗リ及カッター二隻ヲ乗上格丸ニ

立テ、自標トシテ、下、虽モ逆浪、危、浪、ハ、毫モ、砂、浜、上、陸、点
 ト、異、ハ、シ、依、テ、午、後、二、時、半、分、湾、ノ、西、隅、に、於、テ、是、モ、逆、浪、少
 シ、ト、浪、ノ、大、ル、岩、礁、間、ニ、上、陸、点、ヲ、定、メ、ト、シ、松、島、及、浪、車、ヨリ
 兵、兵、各、二、十、名、ト、石、炭、袋、五、拾、伯、ヲ、差、下、俟、リ、上、陸、用、波、止
 塔、ヲ、建、設、シ、午、後、六、時、四、拾、分、ニ、着、本、セ、シ、ラ、シ、テ、之、ヲ、陸、軍、ニ
 引、渡、シ、尔、来、本、地、点、ヲ、以、テ、上、陸、場、ト、為、セ、リ、己、字、減、産
 ト、称、ス、ル、所、ニ、シ、テ、午、後、二、時、五、十、五、分、頃、也、然、ル、所、ノ、浪、
 迎、リ、

此、右、ノ、所、及、別、訓、令、ヲ、欲、ス

一、右、所、ノ、浪、車、ノ、名、其、ノ、所、在、三、角、角、地、ニ、在、リ、

一、考、古、ノ、歴、史、ノ、船、隊、ヨリ、水、雷、ヲ、若、干、名、ヲ、師、團、ト、共、ニ、陸
 海、ヨリ、派、出、シ、基、隆、港、取、込、後、港、口、布、設、水、雷、ヲ
 安、全、ナ、ラ、シ、ム、ノ、ニ、

二 考良河、嘉士、協、漢之、陸、基隆港、攻、奪、時
樣、之、三、大、卒、制、砲、擊、ヲ、為、ス、レ、シ
三 師、團、基、隆、港、ヲ、占、領、ス、古、之、港、口、水、雷、ヲ、撤、去、シ、軍
差、船、ヲ、港、内、ニ、停、舟、ク、レ、シ

基隆總督子壽樺山資紀

考、は、艦、隊、日、長、古、有、地、品、之、元、後

訓、令、以、在、三、島、有、其、九、百、五、十、三、畝、角、地、ニ、於、テ

陸揚中風浪其他為ノ一時也、諸地ヲ、離、去、ス、ル、ト、キ、ハ、北、緯、三、十、五、度、四、分、東、經、百、三、十、三、度、五、分、(即、チ、三、角、南、ヨリ、正、東、約、六、十、哩、ノ、地、ヲ、以、テ、集、合、点、ト、宣、フ、事、止、リ、後、ハ、再、ヒ、原、諸、地、ニ、均、分、ス、レ、シ、但、チ、集、合、点、ハ、生、徒、ヲ、為、難、船、ニ、自、ラ、ス、レ、シ、

台灣紀略子壽樺山資紀

第、五、卷、序、目、長、古、地、品、之、元、後

臺灣紀略卷之四 檳榔嶼紀

常備船隊に令其長官地所之之取

此。左。右。令。の。松。島。船。長。に。與。つ。

旗。令。第。四。号

命令

一 近衛河を、基隆港の附近に在る後直に水雷艇所を、
多量に搜索せしめ、其船隻入港の際に危険に陥らしめ、
ルものあり、掩せしむる目的の以て人員を派遣せしむるに依り、左
ノ人員を必要とする者あり、其等もせしむるに依り、河を、とて、
ト同時に派せしむるに依り、

水雷長 一

班士長 (掌水雷長) 一

下士 (掌水雷長) 八

二 各の糧食百石ヲ携帶せしに後於て糧食ノ配給ハ
陸軍に於て為す事ニ協議ニ委り又存念ハ陸軍ノ指
揮ヲ受クヘシ

三 上陸シタルキハ人民私物ニ係ル物品ヲ掠奪スルハ勿論
擄ルニ民家ニ出入シ又ハ良民ノ生命ニ危害ヲ加ル所為ニ
スル風ハ極力壞れせしメサルトシ海軍ニモ部下諸兵ニ
堅ク禁戒ヲ加ク一点ノ私權ナカクシムヘシ

四 基隆占領ノ當リハ本島ハ同港外ニ於テ水雷艇所ノ搜索
ニ係ル報告ヲ為ストス而シテ敵兵ノ進出ニ至ラズ
爲ルニ注意セシトス

陸軍ニ於テハ本島ノ東部ニ陸軍ニ於テ

若シ陸軍ニ於テハ本島ノ東部ニ陸軍ニ於テ

松島に於て是れより其の地を

此に於て左の家名より其の地を

松島系五号

家名

一 松島に於て是れより其の地を
 八日頃佐世保軍港より出船し又佐世保軍港より松島に
 芳毛湯水より其の地を依て其の地を
 淡水港より其の地を依て其の地を
 三 直ぐに三貂角上陸点より其の地を
 二 高項往務方より其の地を淡水港に在りて其の地を
 磯浜より其の地を淡水港に在りて其の地を
 三 高項往務方より其の地を淡水港に在りて其の地を
 三 高項往務方より其の地を淡水港に在りて其の地を

明治十八年五月三十日

常陸船隊は長門地方に在る

長門船長内田正敏

五月三十日午後四時五分長門港水に白く出港ス

陸軍事務官船長内田正敏の由記スルノ便知テキ、

長門船長内田正敏

許存ノ六号

命令

本長は基隆港若くは淡水港に在るに依りて船隻出

来入の旨に本隊に會入シ

明治十八年五月三十日

常陸船隊は長門地方に在る

西京丸船長内田正敏

毎頁

三、混成枝隊之中隊ヲ澎湖島ニ遣ハシテ先ニ橋梁ノ修築
 ハ給ルヲ基ニ陸路ニ集合セシメラルルヲ為メ軍艦ヲ船
 港ニ派セシムル
 四、峯台ノ病院船神丸及工作船元山丸ヲ本隊所駐地
 ニ本隊セシムル
 五、神丸ヨリ陸路ニ派セシムル人員及テ船中ノ海兵セシメ又
 工作船元山丸ヲ船中ノ修理及中ノ工子ヲ本隊ニ結
 了セシムル後回航セシムル
 六、混成枝隊長及民政隊長及人員便乗ノ依頼アリ
 タルトキハ本隊夜間感染ノ患レキヲ本隊及民政隊長
 夫及ノ所ニ便乗ノ便會ヲ与フヘシ
 七、本隊若何水雷艦隊及水雷艇隊ハ本隊ニ見ルヘシ
 八、本隊ニ基隆港日領ノ後ニ同港ニ見臨セラルベシ

0031

八三船角上陸点とアルシ
明正年大津五月三日

常海船隊、會長友有地留三允

左 澎湖島

近江丸船長尾形惟善也

此の午後五時頃湾外ニ一隻大形支那船漂多見小汽
船ヲ遭了擱着せしメ之ヲ新江名ヨリ出漢中下ノモノニシテ
同船泊口ノ倉ニアルモノナリト云フ別ニ於テノキ点ナシ

六月百五前七時海軍軍艦送那河野浦丸入港ス同船中城
湾ニ於テ予ニ檢テ倉ニ淡水、白ケ酸ヲ申シ船角附と
シテ多量、船船ヲ認メテ入港シタルナリ

此日及七日ノ二日間泊港シ、英國丸ヲ右岸ニ檢入ル進駐
近來所見ハ七日及八日ヨリハ未ニ見ルニ至ル

既ニセトスルノ際ニシテヨリテ後ヨリ牽制運動ヲ生
ムトナラズニシテ、訓令ヲ發ス

訓令
陸軍第八号

一 近來海軍ニ對スル者甚隆ヲ明カセトス

本國ハ海軍ノ長ト協議シ艦隊ヲ率ヒテ基隆港ヲ

牽制砲撃スルキハ、向テ交々ヨリ依テ本艦隊ヲ率ヒ

向テ出港先ツ基隆港内ニ状況ヲ觀察シ彼ヨリ

砲撃ヲ受テタルトキハ之ニ對シテ牽制砲撃ヲ為ス

トス

二 既ニ前ハ沖合ニ漂泊スル者未ダ基隆港外ニ至ラズ

三 基隆港占領後水雷艇所等ヲ有テテ搜索セシムル為

メ松島ヨリ人夫ヲ向テ共ニ派遣セシムルヲ以テ之ヲ執

海

軍

昔、基隆港の港に於ては、及ては、探検者、大揚海、為
サレ、尤、ト、又、依、テ、陸、ノ、各、種、ニ、於、テ、之、力、準、備、ヲ、為、ス、レ、
曰、基隆港、巨、嶺、後、同、港、ニ、上、陸、点、ヲ、移、転、ス、ル、等、
ナリ、依、テ、本、船、隊、を、生、附、也、ニ、碇、泊、セ、ト、ス、

取、扱、ス、ル、事、ニ、由、リ、三、船、角、ヲ、持、テ、

昔、後、船、隊、は、今、之、友、ニ、地、不、之、元

昔、船、隊、は、今、之、友、ニ、地、不、之、元

昔、船、隊、は、今、之、友、ニ、地、不、之、元

昔、船、隊、は、今、之、友、ニ、地、不、之、元

昔、船、隊、は、今、之、友、ニ、地、不、之、元

昔、船、隊、は、今、之、友、ニ、地、不、之、元

此、の、後、中、時、言、之、種、種、各、商、船、公、義、号、ヲ、導、テ、三、船、角、
本、の、公、義、号、ハ、情、志、を、接、接、者、亦、本、船、隊、若、高、地、居、ル、也

橋頭に法蘭西艦ヲ掲ス

真下植と名付、遠く古くは水港、あるは氏田家、
午後基隆沖に於て七隊と合スキ、
明日午後零時五分三船灣出、
六月二十日、午後零時四十分三船灣出、
率して基隆沖に於て午後一時五分、
三時基隆沖凡十哩、
ヨリ本七隊と合ス、
第一小隊(三)松島、
第二小隊(三)浪速、
第三小隊(三)高千穂

或開陣海ヲ為サ、
島に接シテ
植及及港内ヲ
植及及港内ヲ

植及及港内ヲ
植及及港内ヲ
植及及港内ヲ
植及及港内ヲ

毎

頁

0035

航路ハ、山島砲台より七子末突乃至六子末突迄ア
 一砲モ彼砲撃炎白地ノ旗ヲ掲ケテ砲ハ照準シルモノ
 如ク兵員ハ砲台ノ旨ニ立テ我軍運動ニ注ヒテヤリ
 港外多数ノ漁舟漁業ヲ從事スルアリ午後四時三十分子代
 田ヲシテ臨檢セシメ港内及陸上ノ状況ヲ聞カシム
 鷄籠島ヲ過キテ後艦隊ハ左十六点ノ方向ヲ転シ再ニ基
 隆港外ヲ横ルニ砲台ハ各々セカル早依付アリ
 午後六時五十分日艦隊ニ海ヲ去リ大略分リテ艦ヲ申述
 ハキヤト信号ス依テ末艦ヲ従ス須臾シテ五時日艦長末艦報
 告ノ要領ヲ如シ
 一、山島砲台ハ大形ニシテ五門アリ。港正面ニ在ル高
 十砲台ハ大形ノ三門アリ。税関東方海岸砲台
 一、小形砲一門アリ。ルン角砲台ハ大形一門アリ

0036

クニガ 峯西丸小湾底ニ小形砲ヲ伍ル砲台アリ

ニ水雷衝所ハクニガ 峰ニテ所ヨリ凡ソ九十本ノ線電

纜トシテ出シ港内ニ一面ニ水雷ヲ布設シテ黒色ノ浮

標ヲ以テ其位置ヲ示ス

三漁舟等港内ヲ徘徊スルトキハ浮標ニ觸レサレバ危険ナ

シト聞キ居リ

四バム山砲台ハ港正面ニ砲台ヲ指揮スル人ノ陣

ト称ス

五基隆駐在ノ兵數ハ凡ソ三四千アリ皆テ從來ノ兵ニシテ

湖南ノモチリ固下基隆ヲ外圍スル山麓ニ陣ヲ布ク

而シテ砲台ニ兵數多カス

六砲台ハ軍艦港内ニ係リテハ砲台ニ圍シ砲種ハ白

式ニ屬シ精良トスモ空彈丸ハ砲尾ヲ裝設スルモナリ

0037

七法蘭西の兵船が引揚が其差陸路に現れ其市政
官の江上称スル人(黒旗問答ニシテ文意有)之ヲ理ス
ハ砲台ヲ移ハ敵ノ前ヨリ黃龍旗ヲ撤シテ青席旗ニ
変シタリ

九一昨日(青席)入港シタル清船福靖号ハ他ノ入港シ
居タル小艦ト共ニ今日夕刻出港セリ

十以上ノ漢夫五名ニ就テ聞得タル所ニテ漢夫ノ言ニ依リ良
民ハ一般ニ早ク日本兵ノ占領ヲ希望シツクアリ市民ハ婦
女ノ外ニ逃避セムモノナシ云々

又子母船長ヲ旗令第五號ハ命令ニ依リ後事シタル復命
書ヲ呈出セリ左ニ之ヲ掲ク

(子母船長外記報告入)

子母船長右諸報告ヲ為シ間接船松島ト子母船ハ列

外ニ出テ、停止シ第一小队ヲシテ沖方ニ進マシム時恰ニ日没
ニ近キニ依リ、隊定メ、如ク漂泊為ラズ、令ソトス、本報機
速力ニテ、正子迄針路ヲ小ニ取リ、夫ヲ針路ヲ南ニ取リ
シ

午後八時第一小队ヲ北ニ回テ、微速航程一ス

六月三日、午前八時五分第一小队右十六点ニ列ノ方向ヲ
變ス(針路南)第一小队ヲ北時北月後ヨリ、東ノ合ニ、船
陣ヲ制ル午前四時廿五分、鷓鴣花島ノ東方ニ、列ノ方向右
十二点ニ變シ、基隆港外ヲ、横ラス、五時二十分、言子植ヲ
ハ、ル、島砲臺ノ東ニ、行ハシ、ノ様子ヲ、窺ハシ、ト浪速(月夜右
ノ、艦)ニ、令ス、北ノ、列ノ、言子植ノ、向ヲ、變ケ、列ノ、出ツ
船隊、ニ、基隆港外ノ、東ノ、方ニ、列ノ、向ヲ、變シ、再ニ、鷓鴣花島ノ、方ニ、向ヒ、港外ヲ、横ラス、六時

五十五公老力増加にて系連力トシテ富子植漂流ニ見
ケムニ流外ニ針路ヲ取ル言ハ植ヲセツク及ニテ小流
船陸岸傍高岸トシテ信号之船隊ハ船方流連力減シ
小流船ト高岸トシテ多ク分リセシ止ム言ハ植
小流船傍岸少シ岸傍高岸法采ヲ報告ニテ
曰ク

一本島トバーム島間ナル瀬戸ニ四五隻ノ支那舟アリ

本島向キバーム島ノ渡ル所ノ支那舟多ク見
テ勤動陸岸ト高岸トシテ人々ニ船ヲ支那舟
ノ指サシテ去善ヲ携帶セリ船尾艦高ク射撃
スルコトナリ

二バーム島砲台ニ東側ヨリ見得ル所ハ砲数三門ニシテ
彼ノ砲台亦砲臺ニシテ巨砲積ムル如ク又ハ支那

風、轉門、

三白波、之、着、シ、タル、丈、ケ、高、キ、人、物、見、ル、或、ハ、西、洋、人

ナ、リ、シ、カ

更、テ、音、多、種、少、洋、艦、ト、名、シ、テ、亦、代、田、ト、主、ル、通、譯、及、シ、空、艦

セ、シ、メ、海、岸、ヲ、往、廻、ス、ル、船、名、ヲ、修、補、セ、シ、リ、同、時、松、島、小

汽、船、ニ、名、如、大、尉、及、自、國、譯、友、一、名、ヲ、派、組、セ、リ、ケ、ル、モ、一、湾、を

傍、ノ、海、岸、ヲ、往、來、セ、シ、ム

音、多、種、列、ニ、入、ル

多、志、ハ、射、東、山、東、方、位、ヲ、軍、艦、大、島、千、本、ル、ヲ、認、ム、同、時、三、船

湾、ヨ、リ、系、團、丸、出、テ、來、ル、通、信、ヲ、要、ス、タ、ト、問、フ、ニ、答、シ、ト

答、フ

多、志、ハ、射、十、分、陸、上、ニ、統、部、ヲ、設、ク、又、枝、隊、軍、甘、登、陸、東、

ル、音、出、願、ヲ、と、ス、見、シ、テ、熟、視、ス、レ、ハ、日、本、軍、艦、ヲ、振、ル、モ、ナ、リ

多勢の時中、只の程、人連力、事方減、に、あ、方、向、
 表、シ、テ、旗、船、ノ、自、海、を、と、シ、メ、漸、次、パ、ル、島、を、と、リ、針
 路、ヲ、取、ル、而、シ、テ、八、時、五、分、陸、軍、ノ、お、も、を、越、境、ス、ル、者、
 程、ヲ、空、砲、ヲ、發、シ、セ、シ、九、時、十、分、打、方、ヲ、止、ノ、休、憩、ス、同
 時、大、島、本、島、と、を、ト、キ、東、ル、以、テ、言、ハ、植、ノ、自、海、を、と、リ、列
 入、シ、キ、居、ス、ト、時、言、ハ、植、ノ、流、船、均、ヲ、了、報、告、シ、高、ノ
 賊、ノ、敗、レ、タ、リ、シ、カ、報、言、ノ、如、キ、事、ヲ、告、シ、テ、凡、ク、計、リ
 海、岸、沿、路、に、出、テ、走、ツ、テ、パ、ル、島、ノ、方、ニ、赴、キ、至、
 其、者、ハ、我、レ、と、向、テ、銃、射、セ、リ、ト
 依、テ、同、船、ヲ、言、ハ、植、ノ、復、シ、メ、該、船、ハ、海、岸、ニ、と、リ、キ、枝、杭
 工、ル、者、ヲ、攻、撃、セ、リ、ト、ノ、旨、告、シ、テ、一、と、ム、
 松、島、ノ、偵、察、船、ノ、復、命、シ、テ、白、ノ、
 海、岸、ヲ、徘徊、ス、ル、支、那、船、及、小、舟、ヲ、掃、蕩、ス、ル、ニ、皆、ナ

家財家具ヲ以テ強ク強ク
クルモノニシテ怪シムキモノナシ

又、ケムモ、湾ノ上陸シテ村民ニ聞ク所ニ依リ、此ノ村ニ

去三ノ家ニ分レテ此地方ヲ圍ニシヤリ、敵兵ハ其ノ

邊一子ノ陣ヲ設ケ、毛セシガ、今ヤ去テ、陸ノ方七、八、里地

ニアリト、少ク、ケムモ、湾ヲ其陸ニ、ムルノ里程十八、九、里

ニシテ、山ノ邊ト、海岸ノ邊ト、リ、海岸ノ邊ハ、陸ノ邊ト、山

ノ邊ハ、較ヤ好ク、シテ、馬ヲ通ス、ハ、シト、海岸ヲ去ル、カラス

車輛アリ、行テ、之ヲ、見テ、尋常車ニシテ、軍用ノモノト

アラサリシ

午後九時三十分、神ノ丸、澎湖島ヲ、本ノ列外ニ、停止ス

多ク、十時十二分、高ノ植陸ノ岸ニ、シテ、キ、砲撃ヲ、為ス、第一、砲ヲ

者、スルト、キ、バ、ム、島、砲、台、ヨリ、多ク、植、上、向テ、砲撃シ、續テ、其、邊

（港、正、向、ナル、カ、キ）砲、撃、ヲ、行テ、艦隊ニ、向テ、砲撃、セ、ル、ナ、キ

多末十時廿六分右船橋江軍艦控揚ケ砲台攻撃ヲ
ム此時艦隊ノ位置ハ山島東六子木と実察シテ砲撃
島前方ヲ視セシム砲撃シテ各艦ノ戦闘報告ヲ之
シ(右艦ハ此砲撃ヲ中財貯蓄スル事故ニ報告ナシ)

報告書

巨砲ハ海上ニ隔リ九トキ(多末十時三十七分)砲撃ヲ止メ

休憩セシム

此砲撃中ハ山島砲台より艦隊ニ向テ発射シタル砲
弾ハ二枚ニシテ本島砲台より各射之ル砲弾ハ五枚
ニシテ而シテ山島砲台砲丸ハ一枚艦隊ニ上ラシク砲
弾ニ着クハ別外ニテリシ事急丸及神丸ノを傍ニ砲
撃スルモノアリシモ本島砲台砲丸ハ皆命中ニシテ
多末十時三十分ニ灣外艦ヲ暫時停止シ小汽艇ヲ揚ゲ

萬丸の三船湾の神丸正戸各保の三船湾
ニ著リ状況ニ樟山船昔ニ報セリ

在灣船多し屋形を正丸程長きを報告ニ接ス

(報告者ハル)

六月甲子拂曉に依り位流漸多し西ニ偏シタル者ハ
依り針返ニ東ニ移リ基隆沖ニ向ス

午前六時三十分松島樺太ニ故障アリ船首等ハ能ク列外

ニ出リ浪速ニ大ニ船互ニ位流ヲ覆シ且ツ浪速(船隊

田舎直ニ基隆沖ニ於テ直ニ運動スルニ州令ニ浪速

ニ船隊ノ指揮ヲ依テト信号ス依テ浪速以テ四艘ハ基

隆沖ヲ直ニシテナムニ湾沖ニ移リ右舷シテハ砲台

ニ乗ル向ヒツリ松島ニ對シテ島ノ南九ノ海里ニと

樺太ノ故跡ヲキミエテ了ル此時浪速ニ信号シテ砲台占領

伯行ニキ水雷船所獲之ニ電氣水雷ノ先ツ先後ノ事
 ケリ交合ヲ為シ電氣水雷ノ粘着スルニ同長云々ノ所ニ
 依リ港内ニテ余個ノ水雷アリ又防禦ノ為メ澳網ヲ張
 レルアリ電氣ノ人負テテ取降中ノ事ト云々
 午後六時兵火
 起ルニシテ船ヲ推海ニテ津波セシメ浪急水雷長
 毛大尉ヲシテ之カ指揮長トシ港内ノ水雷ヲ探ラシム
 所ニ探海ヲ施シタル港内及港外ノ電氣ニテ午後八時
 迄探ラシムルニ約提スル所ナシ
 午後七時電氣種三船角ノ物未入港外ニ探海セ
 シム
 午後十時三十分至陸方面ノ海防情報ヲ補充
 三船角ノ派員云々

毎
 頁

0047

海行事セシト抗ニ午後三時を掃海施リ先ツ港
外敵ハ先浪物ナキヲ確ク字標ヲ示シ平ハ之ヲ除キ
タリト報告アリ依テモノ船國ノ船ヲ認知セテ有テ報告
シ置報通信支那及何處ヨリ船ヲ認知セテ有テ報告

別頁挿入

而シテ港ノ内敵ニ布設セル水雷ヲ除却トセヨメテ
合ラセヌ

格屋カ九号ノ船カ入ル

六月廿日 陸軍大臣ノ大島ヲ降クル田原ヲ水雷除却
ニ着手シ午後七時迄テ港内水雷除却トセヨメテ
合ラセヌ
報告ニテ是報通信支那及何處ヨリ船ヲ認知セテ有テ報告
シ置報通信支那及何處ヨリ船ヲ認知セテ有テ報告

時日軍船自言支那、依頼、右レ揚子業ノ
為ノ活老ノ汽船、突与チ
海國之記載ニ凡基督港内危殆浮標ニ個
除テアルモノアリ、此ノ事、大島ラシテ、東位、至、浮標
ノ定、年々トシム

右報告也

西曆一千八百九十一年三月廿七日 基隆港外行

常山洋行 小島 氏 宛

臺灣總督府 基隆港 外 行

0050